医情報基礎実験II(1)「フィジカルコンピューティングの基礎」補足資料

--Arduinoエミュレータ "Emuduino"[1] による、復習とフィジカルコンピューティングの独習--

同志社大学 生命医科学部 医情報学科

http://dmpl.doshisha.ac.jp/soft/arduino/arduino_emulator.pdf

1 目的

フィジカルコンピューティングのテーマはArduinoの実機がないと予習・復習が難しい. ArduinoのエミュレータであるEmuduinoを使うと、ソフトウェアレベルで、Arduinoの簡単な操作が再現できる. Emuduinoでフィジカルコンピューティングについて気軽に学べる環境を構築する.

2 準備

2.1 "Emuduino" [エミュドュィーノ] のインストール

用意するもの: Arduinoエミュレータ*,** "Emuduino" (特別版)

http://dmpl.doshisha.ac.jp/soft/arduino/processing-2.2.1 emuduino-d.zip からダウンロード(110MB). 適当なフォルダにZipファイルを展開. 実習の時のようにデスクトップや, 例えば, C:¥tool¥ というフォルダを作成し, そこにフォルダごと展開してもよい. (C:¥tool¥processing-2.2.1 emuduino-d¥).

*エミュレート・エミュレータ・・・実際の機器をソフトウェアで仮想的にPC上で実行すること、またはそのソフトウェア

**このエミュレータはProcessingというフィジカルコンピューティング開発環境を活用している(Arduino IDEはこのProcessingのIDEを改良したもの). エミュレータ本体はProcessingフォルダの

..¥processing-2.2.1_emuduino-d¥modes¥java¥libraries¥emuduino¥

以下に入っている.(最新のProcessingでは動かない。2.X系のProcessingを使う。)

2.2 Emuduino の起動

Processingフォルダ内のIDE (processing(.exe)) を起動する.

例: C:\tool\text{\text{\text{Processing-2.2.1}} emuduino-d\text{\text{\text{Processing.exe}}}

ArduinoIDEに似たProcessingのIDEが立ち上がる. File→Examples→Libraries→Blink→Blinkを開くと,下の図のような画面になる.

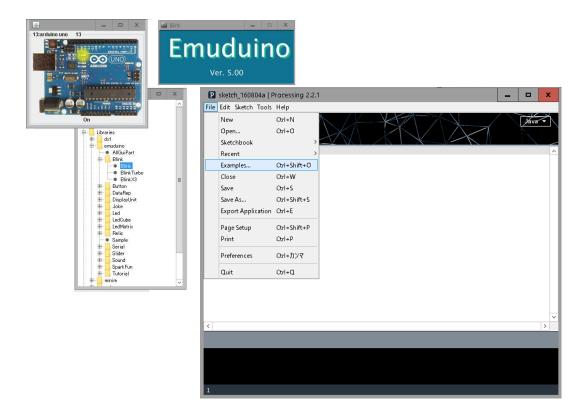


図1 Enuduino起動画面

3 実習方法

3.1 Emuduinoによるプログラミングと実行

Processingのサンプル(メニューのFile→Examples)「Blink」を開き、実行ボタン 【▶】を押し、プログラ ムを実行する.終了する時は停止ボタン ● を押す.



3.2 (バーチャル) LEDの点灯

サンプルのBlink→LEDでLED点灯のサンプルを試せる.

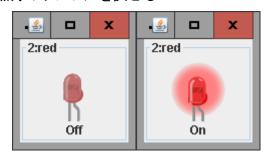


図2 EmuduinoでのLED(発光ダイオード)

3 その他

3.1 EmuduinoとArduino実機によるプログラミングの違い

エミュレート用に最初に以下の "宣言" があるのと,

import net.triring.emuduino.*;

import ddf.minim.AudioOutput;

ソースコードの後半に、電子部品のエミュレート用のコードがある、基本的に、setup()、loop()の部分で Arduinoに命令をするのは実習で行った通りである. その他、Emuduinoで準備されている電子部品しか使え ないなどの制約はある[2].

4 参考文献

[1] triring.net, "Emu(lator) + (Ar) duino Arduinoエミュレータ", http://triring.net/program/Arduino/Emuduino/ (2016年8月1日 13:15)

[2] (Emuduinoの情報は上の triring.net による情報のほか、ここでもまとめていく) 松浦弘智, "同志社 松浦弘智 Wik / 特集 Emuduinoi", http://dmpl.doshisha.ac.jp/members/matsuura/h7matuura_wiki, (2016年8月4 日 08:15)